

有限会社 西日本農業社（臼杵市野津町）

【経営の概要】

経営形態	家族経営（農業生産法人）
モデルの種類	作業受託モデル
就農時期	平成16年
労働力	基幹3名、補助2名

【経営規模 (ha)】

	経営面積	水 稻	麦 類		作業受託 (耕起、田植、収穫、乾燥調製)
			シノカサ	もち麦	
平成19年	10.6	4.5	4.1	0.7	延べ67ha
平成20年	13.5	5.5	6.2	1.3	延べ71ha
平成21年	19.4	4.5	9.9	2.3	延べ76ha

【機械装備】

トラクター (17ps, 32ps, 30ps)	3台	麦6条播種機	1台
田植機 (6条植え)	5台	溝上げ機	1台
自脱型コンバイン(4条、3条)	2台	サブソイラー	1台
乾燥機一式	合計212石		
籾摺機 (5.5インチ)	2台		

【経営の特徴】

臼杵市の土地利用型農業経営としては、作業受託を含め、最も大規模な経営体である。臼杵市における水田農業の担い手として位置づけられている。

平成16年の就農とともに、有限会社として水稻+麦+作業受託を中心とした土地利用型業経営を開始した。経営規模は年々増加し規模拡大が図られてきた。特に、ライスセンターを中心に作業受託が拡大しており、全収入に占める割合は最も高くなっている。

【導入した新技術】

◎自脱型コンバインによる収穫

4条刈りコンバインによる収穫を実施。効率的な作業を行うため、適期収穫の指導を行った。圃場での作業効率は良くなっているが、作付地が分散しているため移動の時間を要している。水稻、麦の作付け圃場は集落単位で集約できつつあるが、さらに効率をあげるためには圃場の集約、選定が重要と考えられる。

	水稻	水稻作業受託	麦
平成18年	5.6ha	7ha	1.6ha
平成19年	4.5ha	10ha	4.8ha
平成20年	5.5ha	13ha	7.5ha
平成21年	4.5ha		12.2ha

◎カラスケールによる施肥調節技術

水稻の穂肥量の判断として、カラスケールによる水稻の葉色診断を行い、水田農業研究所が作成している草丈と葉色による指標を参考に、施肥時期、施用量を判断した。

平成20年産より、減化学肥料栽培に対応した元肥を導入。また、省力化のため、一部肥効調節型肥料も使用した。

◎**土壌診断に基づく緩効性肥料による省力型追肥**

醬油用小麦の追肥を緩効性肥料とすることで、穂肥以降の施肥の省力化を図る目的で試験的に実施した。

全体の結果

	作付面積	単収	検査実績	タンパク含量 (サンプル分析平均)
平成19年	4.1ha	343kg/10a	全量1等	—
平成20年	6.2ha	424kg/10a	全量2等	12.2
平成21年	9.9ha	325kg/10a	全量1等	12.2



<緩効性肥料の実証試験>

◎**主な波及活動**

J Aおおいの野津町地域本部 作物部会、麦生産者部会の研修会において事例紹介を行った。
3カ年の取り組みについて中部地区法人連絡協議会の中で発表し、意見交換を行った。

【**経営状況**】

(10aあたり)

	労働時間 (県平均比)	全算入生産費 (県平均比)	所得
経営全体	4,266hr (作業受託込みの総労働時間)	69,187円	33,906円
水 稻	22.2hr (71%)	79,384円 (97%)	
麦	11.1hr (120%)	49,358円 (118%)	